

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】 アグリビギナー等技術経営研修会（第1回・果樹）を開催
～接ぎ木の実演～

令和7年12月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入にむけての実証試験～	
2. 秋冬だいこんの優良品種選抜検討会の実施	
II 那賀振興局	2
1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティが勉強会（第2回）を開催～	
2. 紀の川市内の小学校で地場産農産物の出前授業を実施	
III 伊都振興局	3
重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】	
1. 農業技術講習会（果樹コース）を開催	
2. 農業技術講習会（野菜コース）を開催	
IV 有田振興局	4
1. 温州みかん「あおさん」の特性調査を行っています！	
V 日高振興局	5-6
1. みなべ梅郷クラブが先進地研修会を実施	
2. 第40回美浜町農産物品評会が開催されました	
3. いちご生産者の園地巡回を実施	
VI 西牟婁振興局	7-8
1. 中辺路町生活研究グループ連絡協議会が郷土料理づくり研修会 を開催	
2. アグリビギナー等技術経営研修会（第1回・果樹）を開催	
3. 稲成いちご研究会が現地検討会を実施	
VII 東牟婁振興局	9-10
重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】	
1-1. ～いちご定植ほ場現地巡回を実施～	
1-2. ～出荷検討会（めならし会）を実施～	
2. 令和7年度環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催	
3. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施	

Ⅷ 農林大学校 **11**

1. 第6回農林大祭を開催
2. スマート農機演習を実施

Ⅸ 経営支援課 **12**

1. 若手普及関係職員試験研究機関研修を実施
2. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が近畿4Hマルシェに参加

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入にむけての実証試験～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。

いちご施設栽培では、農薬散布等の作業の省力化と、農薬連用による害虫の薬剤抵抗性発達を回避することが課題である。またハチを受粉昆虫として利用することから、できるだけ農薬に頼らない栽培体系を確立する必要がある。そこで、管内での利用実績が少ないククメリスカブリダニの導入に向けて、実証ほを設置し調査を行っている。アザミウマの天敵であるククメリスカブリダニは、葉裏や花の内部で定着し、アザミウマの幼虫を捕食する。放飼の2週間後（12/11）と1か月後（12/26）には、定着しているかの調査を経営支援課と農業試験場協力のもと行った。今後も引き続き調査を行い、栽培シーズンを通して効果を検証し、天敵導入技術の普及につなげていきたい。



花たたき法による調査

2. 秋冬だいこんの優良品種選抜検討会の実施

農業水産振興課では、JAわかやまと連携し、和歌山市布引地区においてだいこんの品質維持、向上のため、毎年4～6系統の栽培品種試験を行っている。

和歌山市では砂地でのだいこん生産が多く、とりわけ布引地区で作られるものは品質が良く、古くからブランド品として流通している。また、令和3年に「布引だいこん」が、和歌山県の農産物として初めて地理的表示（GI）に登録されたことが、ブランド力向上につながっている。

今年度も、11月下旬から毎月慣行品種に加え、継続検討品種、新規品種の収穫を行い、慣行品種の欠点を補いながら、品質で上回る新たな品種の探索を続けている。



種苗メーカーとの検討会

Ⅱ 那賀振興局

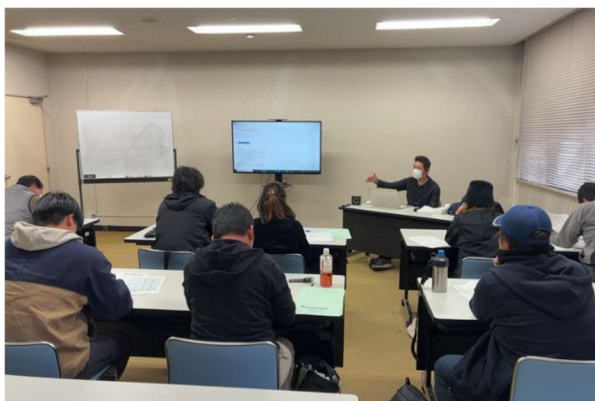
1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】

～那賀いちご若手コミュニティが勉強会（第2回）を開催～

12月3日、「那賀いちご若手コミュニティ（以下、コミュニティ）」は農薬に関する勉強会を那賀振興局で開催し、メンバー12名が出席した。

講師はメンバーの前田氏が務めた。前田氏は10月22日に開催したいちごの育苗資材に関する勉強会でも講師を務めており、メンバーから農薬について詳しく聞きたいと要望が上がっていた。

勉強会では、基礎編として、いちごの重要病害である炭疽病を発生させないための圃場管理のポイント12選や、農薬散布のタイミング等について説明があった。また、実践編として、耐性リスクの小さい農薬ローテーションの組み方について、各種論文や農薬登録情報提供システムの紹介を交えて説明があった。メンバーからは、「耐性リスクのことまでは考えていなかった。自身の農薬ローテーションを見直したい」との声が聞かれた。



農薬に関する勉強会

2. 紀の川市内の小学校で地場産農産物の出前授業を実施

那賀振興局は、紀の川市農業振興課や河南学校給食センター、粉河学校給食センター、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏、以下、環境グループ）と連携し、10月～12月にかけて紀の川市内の小学校5校の6年生を対象に、地場産農産物の出前授業を実施した。

授業では、市・振興局職員が「紀の川市の農業の概要」を説明した後、環境グループの会員が各学校2名ずつ、農業生産における思いや工夫について講話した。

12月2日、安楽川小学校で出前授業を実施し、環境グループの関 弘和氏が「しょうがの作り方と有機農業」について、宮村康平氏が「あら川の桃の現状と自身の活動」について話された。同日、関氏が生産したしょうがが給食で提供されており、児童たちは真剣に聞いていた。

今後、児童達は地場産農産物を使った給食レシピを考え、1月～3月の給食で提供され、その際、講師と児童の交流会が開催される。



しょうが栽培や有機農業について授業する関氏

Ⅲ 伊都振興局

重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

1-1. 農業技術講習会（果樹コース）を開催

12月10日、農業水産振興課では、農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（果樹）を開催し、6名が受講した。

はじめに津田普及指導員が、冬季のかきの管理作業として間伐・縮伐や整枝・剪定、土壌改良、粗皮削りの目的や方法を説明し、続いて芝田技師から農作業安全について啓発を行った。

その後、現地実習を九度山町のかき園で行った。「刀根早生」の剪定について、実演を交えながら説明した。受講者からは、「全体の何割ぐらいの枝を落とすのか」、「平行枝はどのぐらいの幅なら切るのか」等の質問があった。

当課では、次年度も農業技術講習会を実施し、果樹の栽培指導を行っていく。



剪定の講義



剪定の実演

1-2. 農業技術講習会（野菜コース）を開催

12月1日、農業水産振興課では、農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（野菜）を開催し、4名が受講した。

はじめに、浅井普及指導員からマメ科野菜や軟弱野菜についての講義を行い、それらの野菜の特徴や栽培方法、主要病害虫の防除について説明した。

講義終了後、えんどう用のネット張りとプランターでのたまねぎ定植の練習をした。受講者からは、「たまねぎは今からでも植えられるか」、「たまねぎを定植したときに根がマルチの外に少し出たがいいのか」との質問があった。

当課では、次年度も農業技術講習会を実施し、野菜の栽培指導を行っていく。



マメ科野菜の講義



たまねぎの定植

IV 有田振興局

1. 温州みかん「あおさん」の特性調査を行っています！

温州みかん「あおさん」は湯浅町で発見され、熟期が1月と遅く、浮皮の発生が少ない食味に優れた期待の新品種である。

農業水産振興課では、有田管内での品種特性を把握するため、果樹試験場と協力し現地での品質調査を行っている。12月から管内の4園地で月2回の品質調査を開始し、果実肥大や糖度、酸含量を調査している。「あおさん」は、生産者からの期待も大きいため、特性を十分に把握し、得られた情報は今後導入を検討している生産現場へ提供していく。また、有田地域における適正な出荷時期など明らかにしていく予定である。



結実した「あおさん」



「あおさん」の肥大調査

V 日高振興局

1. みなべ梅郷クラブが先進地研修会を実施

12月2日から12月4日に、みなべ梅郷クラブ（会長：木村啓人氏）が、米・野菜・果樹・花の複合経営と6次産業化の取組、市場流通について学ぶことを目的として研修会を開催し、会員5名が参加した。

初日は滋賀県甲賀市にある有限会社シオールファームを訪問し、代表取締役の今井 敏氏から6次産業化における農業経営の考え方、若手育成の取組について説明を受けた後、同社敷地内の医療用フィルムの技術を応用した高糖度トマト栽培ハウスを見学した。

2日目は愛知県名古屋市の名古屋市農業センターdela ふぁーむで、複合経営を行う都市農業の現場を見学し、最終日は名古屋中央卸売市場本場を見学しながら、市場の歴史、中部地方の流通の特徴、市場での価格変動の調節機能について担当者から説明を受けた。

会員からは「6次産業化の取組を参考として、県内のうめ産地も活性化したい」「価格がどのように決定されているか知ることができ参考となった」等の感想があった。



高糖度トマト栽培ハウスを見学する参加者



市場担当者の説明を熱心に聞く参加者

2. 第40回美浜町農産物品評会が開催されました

12月7日、美浜町農業まつり実行委員会（実行委員長：若野博一氏）と美浜町農業振興研究会（会長：久保博巳氏）が共催で、農産物品評会を開催した。町内から131点の農産物が出品され、きゅうり、玄米、ねぎ、みかん等様々な品目が集まった。

前日の12月6日に和歌山県農業協同組合職員と農業水産振興課職員で出品物を審査し、8名が入賞。最優秀賞である和歌山県知事賞には、田口千代氏のきゅうりが選ばれ、表彰式で村中技師が講評を行った。

表彰式が終わると同時に出品物の購入を目的に大勢の人が訪れ、賑わいのある品評会となった。



和歌山県知事賞を受賞した田口氏のきゅうり



農産物品評会の様子

3. いちご生産者の園地巡回を実施

農業水産振興課で花芽検鏡を実施したいちご生産者を対象に、いちごの栽培状況や定植後の生育状況等を調査するため、園地巡回を実施した。園地巡回は、11月4日から開始し、12月は7名の生産者を訪問した。

今作も前作同様の猛暑で、花芽分化の進行は例年より遅い傾向が見られた。定植は、夜冷育苗で9月中下旬、常温育苗で10月上中旬が中心で、前作と同程度または遅めであった。定植後の高温対策としては、夜冷育苗の9月定植において、遮熱資材の被覆やミスト噴霧が行われていた。

近年、常温育苗では花芽分化の遅れから定植を遅くせざるを得ず、収益性の高い年内出荷量の確保が困難になっている。今作は、前作と比べて10月の気温が低かったことから、定植後、株を肥大させるため葉かきやCO₂施用などの栽培管理を積極的に行った生産者は年内収量が多くなったと思われる。



いちごの生育状況の聞き取り

VI 西牟婁振興局

1. 中辺路町生活研究グループ連絡協議会が郷土料理づくり研修会を開催

12月10日、中辺路公民館にて、中辺路町生活研究グループ連絡協議会（会長：森川敏子氏）が郷土料理づくり研修会を開催し、役員と会員5名、また一般の方も1名出席した。

田辺市中辺路町では、古くから落花生の生産が盛んで、ハレの日には落花生を使った「落花生のお寿司」を食べる習慣があるが、お寿司を作ったことのない会員もいることから、今回の研修会を開催した。

当日は、落花生のお寿司だけでなく、落花生とうふ、落花生のおからも調理して、試食まで実施した。落花生とうふは既存のレシピをもとに調理した。落花生のお寿司はレシピが無かったため、調理経験のある会員から指導を受けながら調理してレシピ化した。

出席者からは、「落花生だけでなく、ぜんまい、イタドリ、塩サバなど地元食材がたっぷりおいしい。1人で調理しようと思うと大変だが、皆で作れば役割分担できた。作ったレシピは今後活用していきたい」といった意見が聞かれた。



落花生料理を調理する会員

2. アグリビギナー等技術経営研修会（第1回・果樹）を開催

12月12日、和歌山県農業協同組合三栖支店及び現地圃場にて、管内新規就農者、若手農業者を対象としたアグリビギナー等技術経営研修会を開催した。

当日は、管内の農業者と関係者合わせて11名が出席し、指導農業士の平岩義浩氏より「梅及び梅苗木の生産・経営について」と題し、講演及び園地見学が行われた。

講演では、経営概要、就農後の取組について説明があり、参加者からはうめの苗木の育成方法や接ぎ木の仕方、質問形式で品種ごとの管理の違いや台木用種子の貯蔵法、トレンドなどについて質問があった。また、接ぎ木の実演も行われた。

現地圃場見学では、苗木の育成圃場を見学し、講演での内容を踏まえて苗木の生産について理解を深めた。

参加者からは「苗木の管理について、学べる機会が少ないので勉強になった」との意見があった。



接ぎ木の実演

3. 稲成いちご研究会が現地検討会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士）は、いちご「まりひめ」の高品質安定生産を図るため、毎年、定植前（9月）と共同出荷前（12月）の2回、栽培施設の巡回調査や意見交換を行う現地検討会を実施しており、12月3日に研究会会員、JAわかやま紀南地域本部営農指導員、農業水産振興課職員の10名が参加した。

はじめに、会員の栽培施設を巡回し、1番花の開花状況や病害虫の発生状況を確認した。その後、JAの販売担当職員から令和7年度産のパック詰め規格等についての説明があり、共同出荷開始時期についても協議した。

続いて当課から、普及指導計画で取り組んでいる炭酸ガス施用施設での令和6年産の収量、品質（糖度）、燃油量の調査結果について、資料をもとに説明した。

会員からは、「今年は1番花の生育が遅く、芽なし株の発生も多い。年内に共同出荷できるか心配」「炭酸ガス施用は収量や糖度がアップし、施用効果は高いが、燃油代等経費もかかるので効率的な施用方法を検討する必要がある」との意見があった。

当課では、今後もJAと連携し、いちごの高品質安定生産に向け、同研究会の活動を支援していく。



現地検討会の様子

Ⅶ 東牟婁振興局

重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

1-1.～いちご定植ほ場現地巡回を実施～

12月16日、くろしお苺生産販売組合(会長：畑下由美氏)は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植ほ場現地巡回を実施した。当日は生産者11名、JAわかやま職員1名、当課1名の計13名が出席し、各生産者のほ場を巡回した。

各ほ場では、共同出荷の開始及びめならし会の実施時期を検討するため、生育や病害虫の発生状況などの確認を行った。夏の暑さによる収穫時期の遅れや、晴天が続いたため乾燥によるハダニの発生が見られた。現在の収穫状況、電照の時間帯や照射時間、病害虫の発生状況等について生産者で意見交換を行った。



栽培状況の確認

1-2.～出荷検討会（めならし会）を実施～

12月26日、那智勝浦町苺生産組合（会長：畑下由美氏）は、出荷基準の統一を図るため、JAわかやまみくまの地域営農経済センターにおいていちご「まりひめ」の出荷検討会（めならし会）を実施した。当日は、生産者10名、市場関係者1名、JAわかやま職員3名、那智勝浦町役場職員2名及び当課2名の計18名が参加した。

事務局であるJAわかやま職員から「今年度のいちご栽培は夏の猛暑の影響で花芽分化が遅れ、例年よりも出荷が遅れているが、年内に組合員全員が出荷できて良かった。今日は規格・着色の確認を慣らしていただきたい。」と挨拶があった。

出荷されたいちごの色づき・大きさや荷姿を確認し、参加者で出荷基準の統一を行った。



いちごの色づき・大きさを確認



くろしお苺（まりひめ）

2. 令和7年度環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

12月5日、エコモデル園として設定している串本町重畳山の竹田敏明氏のポンカン園において、令和7年度環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催し、串本町立町民文化センター(西向公民館)において情報交換会を行った。

参加者は21名で、竹田氏から実践している自作堆肥や病害虫の防除など、実践している有機農業に関して説明があった。参加者からは鳥獣害対策や除草について質問があった。

情報交換会では他地域での栽培の状況や、病害虫の対策方法などをメインに、意見が交わされた。



現地研修会の様子



情報交換会の様子

3. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

12月19日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、新宮広域圏公設地方卸売市場で栽培出荷検討会（反省会）を実施した。生産者3名、市場関係者3名、JAわかやまみくまの地域本部の職員1名、当課2名の計9名が参加した。

今年は、生産者が1名増えたため、出荷量は前年より増加したが、7月から8月まで猛暑や水不足、病害虫の被害が甚大だった。組合員らは、使用するマルチ資材などの高温対策についてや良苗の確保について、ほ場の選定に努めること等を話し合った。また、今年度から新たになす栽培に取り組んだ生産者から「今年は定植期が遅くなったため、来年は早期の定植を目指す」との声もあった。



なすの栽培出荷検討会

Ⅷ 農林大学校

1. 第6回農林大祭を開催

11月30日、実行委員会が中心となって農林大祭を開催した。この祭りは実りへの感謝と学校紹介や新鮮な農産物の販売を通じて地域住民との交流を深めることを目的として開催している。今年度は「みのりの和 広がる輪 農林大祭」をテーマに、学生らは一丸となって取り組んだ。

内容は、学生や社会人課程の研修生が丹精込めて育てた農産物や加工品の販売、学校紹介、模擬店、ビンゴ大会、林業研修部の展示、餅まきなどを実施した。学校紹介では、学生が果樹・野菜・花きの各ほ場を説明しながら案内した。当日は、晴天に恵まれ、たくさんのお客様、保護者や卒業生に来ていただき各コーナーは賑わった。



学校紹介の様子



販売の様子

2. スマート農機演習を実施

12月16日に農林大学校において本校1年生15名を対象に、スマート農機演習（無人航空機（ドローン））の授業を実施した。

当日は株式会社未来図から講師が来校し、ドローンを農業利用する際の関係法令や実際に現場での活用事例についての講義があった。その後、農薬散布用ドローンのデモ飛行が行われた。

学生からは「ドローンでの農薬散布ができれば夏場の農薬散布が楽にできそう」、「自分の家の農地でも使ってみたい」等の感想があった。



講義の様子



ドローンのデモ飛行

IX 経営支援課

1. 若手普及関係職員試験研究機関研修を実施

当課では、若手普及職員の資質向上を目的に、振興局農業水産振興課普及グループに配属となった1、2年目の職員に対し、県内農業関係試験研究機関の協力を得て研修を実施している。今年度は、果樹試験場かき・もも研究所、とうめ研究所及び農業試験場において実施し、延べ26名が受講した。

研修では、取り組んでいる試験研究について、研究背景から研究内容、これまでの成果の説明を受けた。また、調査に関して機器の使用法や、試験樹の栽培管理法について指導を受けた。その他、病虫害発生予察等を行っている県農作物病虫害防除所業務について、担当者から説明を受けた。

研修後に受講者から提出された事後報告書に、研究課題への理解が深まるとともに、研究員との顔合わせの機会となったとの感想があった。



かきの収穫実習（かき・もも研究所）



枝幹害虫の観察（うめ研究所）



病虫害防除所業務の説明（農業試験場）

2. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が近畿4Hマルシェに参加

12月21日、近畿地域農業青年クラブ連絡協議会が大阪市の天王寺MIOでマルシェを開催し、県4Hクラブ連絡協議会からは御坊市4Hクラブ連絡協議会、みなべ梅郷クラブ、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会の3クラブから6名が参加した。

各クラブからは、うんしゅうみかんや梅干し、スターチス、ピーマン、加工品等を出品し、クラブ員は支援した普及指導員らとともに通行人への声掛けや、産地、製品のPRを行った。

あいにくの雨天で想定より売り上げは伸びなかったが、他のクラブ員との連携や情報交換の機会となった。



訪れた購買客にPRするクラブ員ら

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489